

治療家と治療家をめざす人のための 鍼灸・手技療法専門マガジン

温故 [ONKO-CHISHIN] 知新



「温故知新」
の情報はこちら
のサイトから

月刊

Vol.26

2016. 9.15

求人情報掲載

毎月15日発行

TAKE FREE

¥0



特集

メディカルアロマテラピー

イベントレポート

OCS 主催「頸上肢疾患の ASTR 手技療法セミナー」

連載記事

鍼灸大航海時代「アメリカ鍼灸大学ランキング編」／伊藤 学

目からウロコの物理学的経絡治療「書籍の記述を立体的にイメージしながら患者様を診る」／岡西 裕幸

医療接遇「身だしなみ」／上石 優子

鍼灸師のための経穴デザイン入門「なぜ鍼灸師は局所のツボを使いたがるのか」／栗原 誠

東洋医学の道「古きを今に活かす」／西野 雅也

柔整師は現場経験が命「その治療活動、勉強は誰のためにしているのですか？」／山田 敬一

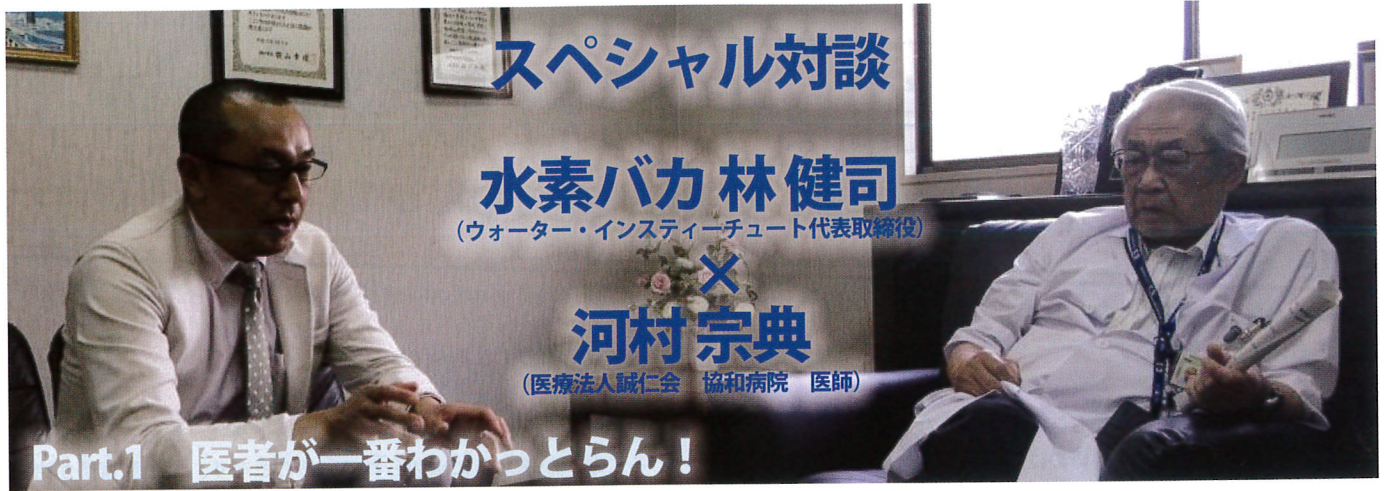
北埔便り 台湾の長寿村から「お茶三昧」／村尾 則広

元気になる楽食「季節の野菜と鮭の甘酢煮」／名畑 のぞみ

スペシャル対談「医者が一番わかつたらん！」／林 健司 × 河村宗典



セラピスト・リーダーズ・カレッジ Presents,



スペシャル対談

水素バカ 林健司
(ウォーター・インスティテュート代表取締役)

×
河村宗典
(医療法人誠仁会 協和病院 医師)

Part.1 医者が一番わかつたらん!

林健司 (以下 林)： 河村先生、今日はお忙しいところ、ありがとうございます。河村先生と父(林秀光)は、神戸大学医学部時代からの朋友で、僕も子供の時から河村先生に随分お世話になりました。早速ですが河村先生、前に仰ってましたよね、「医者が一番わかつたらん」と。

河村宗典 (以下 河村)： 本当にね。今でも一番医者がわかつたらん！『わかりたくない』というか、『わかろうとしない』。わからんわけじゃなくて、『わからない方が都合が良い』というかね。今の医学っていうのは、決められたガイドラインの中でしか動けない。林先生みたいに「パーッ」とね、八方破れで出来る人が、未だにおらんのです。医学的教育を受けた、林先生のような人たちがやったから、水素水がここまで広がった。逆に言えばね。だからね、テレビでご活躍されている太田成男教授も医者じゃないから、動物実験の結果しか出てこない。そこが限界だから、思い切ったことが言えない。林先生は「ガーッ」と言っちゃう。医者の裁量権の中で動けるのって、大きいんです。

林： それはやっぱり河村先生の臨床結果のお蔭だったと思いますよ。

河村： 臨床医としての目があるからね。基礎医学しかやっていなければ出来ないとね。それとね、今の臨床医も治療のガイドラインが決められている。「ここから一歩も出るなよ！」っていう…

林： 確かに母が入院して、お医者さんと話した時に、それを感じました。こういう症状だから、この薬を出す。「あなたの血液はサラサラだから、この薬はいらねえ」っていう対応はしてくださらないわけです。

河村： 薬ね。そうそう、それは言わない。決められた形をちょっとでも外れることはしないです。だからね、水っていうと、全部根底から覆っちゃう可能性がある。だから一切しないわけです。

林： 河村先生に申し上げるのは非常に恐縮なんですけど、僕は薬って、毒やと思うんですよ。

河村： そうですよ。私はね、薬を減らすの大好き！昔はね、薬で儲けよった時代があったんです。利潤の半分以上薬だった。ところが今は数%、下手すりゃ赤字…薬の利潤を削られて、もう丸損

ですから。その利潤を他のマージンで埋めようと思ったら、すごく苦勞するんです。ちゅうことはね、まったく儲からない薬なのに、薬を出すのは何故か？薬が儲けようという商売じゃないとすると、それがまさにガイドライン。医者は、何か患者から要望があれば、その要望に薬で応える、そういう形になっている。

林： 患者が何かを言えば、薬になって返ってくるというわけですね。僕はお医者さんの世界の常識はわかりませんが、お商売で考えると、薬がいわゆる『リピーター作り』の道具になってしまってるんだと感じてしまうのですが…

河村： そうそう、そうですね。毒を飲ませるけど、治らない。ここは治るけど、別のところがおかしくなる。患者に治ってもらわないう方が良い部分はあるかもしれない、ある意味では…

林： お医者さんも良心の呵責が、あるんじゃないですか？

河村： 若い時にはね、そういう呵責を覚えるの。まだナイーブな時はね。ところが、それがだんだんとね、習い性になってきて、しまいはそういうことを言わなくなる。言うて反対されるでしょ。開業医で、自分一人の世界だったら、まだましだけど、病院でそれやったら、つまみだされて、どこにも通用しなくなっちゃう。初めは「おかしい！」って思っているのに、だんだんとね、言わない方が丸く収まるし、自分も出世できるって思えてくる。つまみ出されたら、終わりですからね。そこで優秀になるってことは、仕事がしやすくなるってこと。そういうね、歪んだ世界があるんです。

林： おかしなことだとわかっていても、みんなやってることだし、人格を否定されることでもないですね。お医者さんの中にも、「いずれは！」と思ってる人もいるんでしょうけど、「いずれ」になった時には、もつと言えなくなっている。

河村： だから、ますますおかしくなる。経営者になって、だんだん若い頃に思ってたことを、忘れた方が都合が良くなる。その結果、もう何も言わなくなる。

次号に続く